KIBICHUO

改訂版
2024

私たちの町にやってくる ブッポウソウ

毎年、5月のゴールデンウィークになると、
〝ゲゲゲー〟という鳴き声とともに色鮮やかな青い羽根の
ブッポウソウが私たちの町に子育てにやってきます。
森の宝石といわれるこの鳥がいつまでも訪れるよう、
そして安心して子育てができるよう、引き続き、町では
皆さんと協働して、保護活動に取り組んでいきます。
この冊子では、ブッポウソウの飛来から
巣立ちまでの様子を紹介しています。
ぜひご覧ください。

岡山県　吉備中央町

ブッポウソウに聞いてみよう!

写真提供／森下英昭

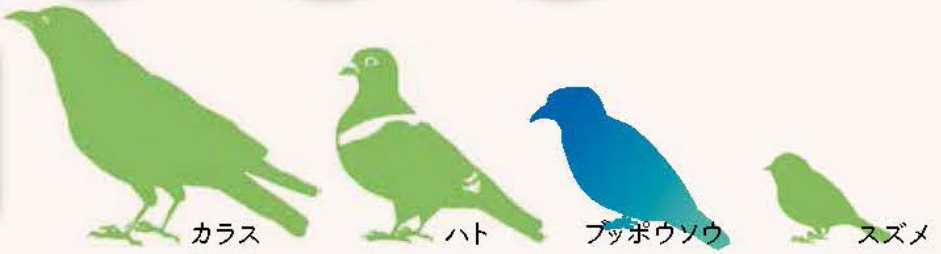
名前の由来は?
“ブッポウソウ”と鳴くと勘違いされて、この名前がつけられたんだ。
平安時代から、“仏法僧”と鳴く霊鳥とされ、詩歌に詠まれていたんだけど、実際に鳴いていたのは、フクロウの仲間のコノハズク。1935年に撃ち落されて確認されるまで、間違えられてきたんだ。どちらも、数が少なく珍しい鳥で、生息場所が似ていたから仕方なかったのかも。今でも、コノハズクのことを“声のブッポウソウ”、本当のブッポウソウのことを“姿のブッポウソウ”と呼び親しまれているよ。

鳴き声は?
ゲッ、ゲッ、ゲゲゲーゲゲゲッ!
一度聞くと忘れられない声だから、すぐにわかるね。

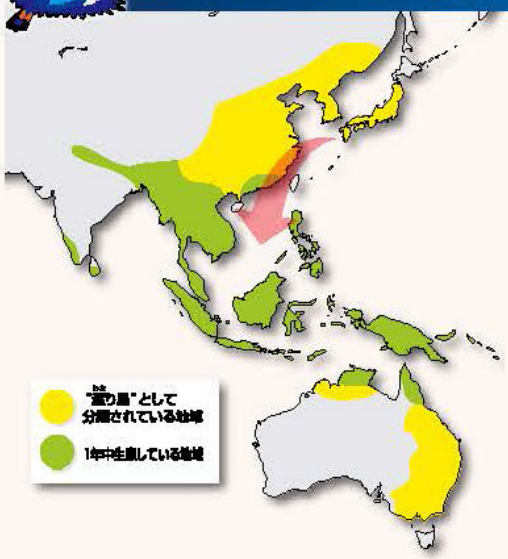
同じ仲間は?
カワセミ、ヤマセミ、アカショウビンだよ。

体重は?
約150g。野球の硬式ボールと同じくらいなんだ。
メスの方が、約170gとオスより少し重いんだ。

体の大きさは?
約29.5cm。
ハトよりやや小さいかな。
シルエットで見比べてみてね。



世界でのブッポウソウの生息地



東南アジア一帯とオーストラリアまで生息しています。
ブッポウソウは、さらに細かく8亜種に分類できて、日本にやってくるのは、1亜種(cyanocollis)のみ。オーストラリアで子育てしているブッポウソウとは、違う種類です。
2011年、日本で子育てしたブッポウソウが、ボルネオ島北部で越冬していることがわかりました。その後、ジオロケータというGPSロガーで調査をしたところ、秋の渡りルートとして、9月初旬に岡山県を旅立ち、長崎県、中国、ベトナム、タイ、カンボジア、インドネシアまで約1か月間かけて移動していることがわかりました。まだ春の渡りルートはわかっていません。

ブッポウソウはどこにいるの？

ブッポウソウは、近い将来、絶滅の危険性が高い鳥類として、
絶滅危惧 1B 類（環境省レッドリスト 2020）・絶滅危惧1類（岡山県レッドデータブック 2020）に分類されています。

なぜブッポウソウは減少したのか・・・？

①ブッポウソウは、キツツキと違って自分で木に穴を掘ることができません。
　キツツキが使った後の古い巣、樹洞（木の穴）などを利用して、子育てを行っていました。

②木製電柱にキツツキがあけた穴を利用するようになりました。緑色をしたキツツキ（アオゲラ）が電柱に穴をあけていたという証言があります。

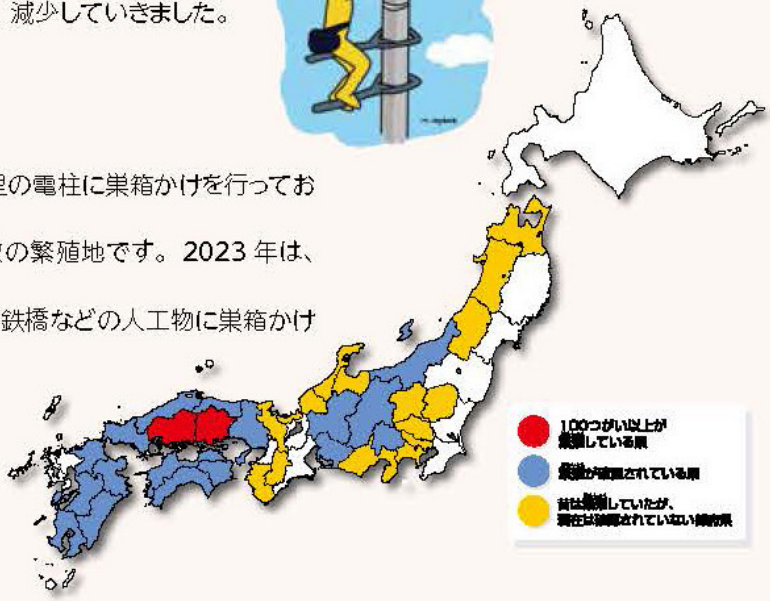
③しかし、1980 年代に電柱が木製からコンクリート製に交換されて、巣穴を失ってしまいました。

④巣を失ってしまったブッポウソウは、子育てができなくなり、減少していきました。

⑤このままでは、ブッポウソウがいなくなってしまうと、
　電柱に巣箱をかける保護活動が始まりました。

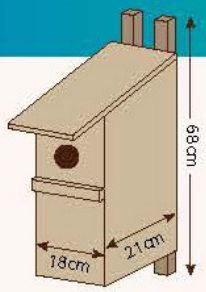
国内の生息地

岡山県、広島県、鳥取県の中国山地では、水田の広がる人里の電柱に巣箱かけを行っており、個体数が増加しています。
吉備中央町では、約 400 羽が飛来してくる、国内でも有数の繁殖地です。2023 年は、約 520 羽のヒナが巣立ちました。
長野県や新潟県など日本北部では、環境は異なり、ブナ林や鉄橋などの人工物に巣箱かけを行っていますが、個体数があまり増えていません。
国内 4 箇所で、「ブッポウソウ渡来地」として天然記念物に指定されています。（岐阜県洲原神社、長野県御岳神社、宮崎県狭野神社、山梨県南巨摩郡身延町）
しかし、今はどこも姿を見ることはできません。このような地域では、樹洞が減少していったことや周りの環境の変化が原因と考えられます。



ブッポウソウが好む巣箱の環境

水田や川があり、近くに親鳥が見張りをできる小高い山や木があるような開けた場所で、山の中ではなく、人里を好みます。



巣箱の設置場所

警戒心の強い鳥なので、テリトリー（縄張り）を考えて、巣箱間の距離は約 300m ほど離す必要があります。
生木や近くに樹木がある場所は、ヒナを食べにヘビがやって来るので、設置には適しません。
電柱に設置された巣箱は、町や保護団体が NTT の許可をもらっています。

巣箱の管理

毎年、町と協働して保護団体が巣箱の掃除、繁殖の確認、補修などを行っています。
ブッポウソウは、巣箱の掃除をしません。ヒナの糞やペリット（吐き出したもの）をそのまま残して、巣立ちます。その他にもフクロウなど樹洞で子育てする鳥も掃除を行いません。
巣箱の前蓋が開くように設計してあり、掃除をしやすくするための工夫です。掃除の際には、「木登り器」を使って電柱に登ります。

3 年分の糞とペリットが溜まった状態。巣箱の掃除は必須です

ペリットの中には甲虫の硬い羽（前翅）やカタツムリなどが残っています

巣箱掃除のようす

ブッポウソウの子育てをの

5月

飛来

5月初め

ブッポウソウが巣箱に帰って来た！

足環の装着により、親鳥が去年と同じ巣箱に戻ってくる（帰巣性）可能性が高いことがわかりました。
ペアは基本的に継続します。4年連続で同じペアで子育てした記録があり、ペアで巣箱を移動することもあります。前年度のペアが帰ってこなかった場合は新しい個体とつがいます。非常に稀に互いに違うペアと子育てすることもあります。

巣箱選定

オスがメスにエサを運んで、求愛給餌（プロポーズ）をします。そして、交尾を行います。

オスとメスは、姿が似ていて見分けがつきません。
しかし、この時期は、餌をあげているのがオス、もらっているのがメスと見分けることができます。

雌雄の羽の違い

雌雄における初列風切羽の色の違い。左がオス、右がメス。
オスの方は青色が強く色鮮やか、メスは青みが少ない。

6月

産

5月末

卵を産みます

1日1個ずつ、
産卵数は、2～5
ニワトリと違って、

ニワトリの卵と同様に白色で同じような形をしています。卵の重さは、約12gです。

抱卵中

卵に熱か
部分は羽
普段は、
見ること

ぞいてみよう!

7月

卵　抱卵

。
1日おきに産みます。
個で、大半の巣箱は4個です。
、午後に卵を産みます。

卵の大きさ(実物大)

すべての卵を産み終えてから、平均21日間抱卵。

昼間は、オスとメス交代しながら、夜はメスが卵を暖めます。

抱卵中は、巣箱に入ると数時間出てきません。時々卵を動かして、すべての卵を均等に暖めます。

ブッポウソウは巣材を運ぶ習性がありませんが、シジュウカラがコケを運んだり、スズメがワラを運んだりします。そのように他の鳥が運んだ巣材がある方が孵化率は高くなります。
左から、巣材なし、コケ、ワラ。先にシジュウカラやスズメが卵を産んでも、ブッポウソウの方が大きいので追い出してしまいます。巣箱掃除のあとには、真砂土を入れることもあります。

の鳥のお腹は、羽がない!!
がよく伝わるために、お腹の
羽がありません。
周りの羽で隠れているので、
はできません。

6月末

ヒナの誕生

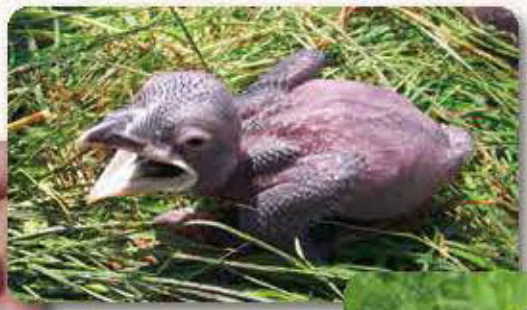
目がまだ見えません。
丸裸で体温調節ができ
メスが暖めます。

餌の内容

コウチュウ目
(カナブン、タマムシ、ゴマダ

エサの種類の中で1番
コガネムシ科が多いです
クワガタムシや
カブトムシは、
角の部分を
ちぎって、
巣へ運んで
きます。

子育て



約1週間後
目が見え始めます。

約2週間後
羽の基本となる羽軸が生えそろい、
トゲトゲになります。

約3週間後
羽が段々そろってきます。

ないため、

ブッポウソウは、昆虫食。
空中で飛んでいる昆虫をかすめ取るように獲ります。
このようなエサの獲り方を「フライングキャッチ」といいます。鋭いくちばしで、硬い甲羅をものともしません。

ブッポウソウの面白い特徴!
子育てが終わった後に巣箱をのぞいてみると、貝殻や空き缶のプルトップが見つかります。これは、ヒナが硬い昆虫を消化するときに手助けるもの（ひき臼）だと考えられています

カメムシ目セミ科
（ニイニイゼミ、ヒグラシ、アブラゼミなど）
それぞれのセミの発生時期に合わせて、運んでくるセミの種類が異なります。

トンボ目
（オニヤンマ、ギンヤンマ、コオニヤンマなど）
オニヤンマを多く運びます。ヒナが大きなオニヤンマをそのまま呑み込んで行く様子は迫力があります。

その他
（バッタ、カタツムリ、貝殻など）
カタツムリは、朝露の動き出す時間帯に集中して運びます。

ラカミキリなど）
多く、とくに
す。

8月

巣立ち

最初のヒナが孵化して、平均26日後に巣立ちします。

巣立ったばかりのヒナは、黄色いくちばし、暗い青色の羽をしており、他の鳥に襲われないように、目立たない色をしています。

親鳥とヒナでは、くちばしの色がこんなに違う!この時期になると、ブッポウソウが数羽集まっているときがあります。ぜひ、くちばしを見て、親鳥なのかヒナなのか、確認してみてください。

旅立ち

巣立ちすると、巣箱には戻って来ません。

ヒナが飛べるようになったころ、旅立つ前に巣箱の周りを鳴きながらグルグルと舞って帰っていく様子は、感動的です。来年も同じ巣箱に戻ってくるために、場所をしっかりと覚えているのかもしれません。

ヒナに標識をして観察した結果、巣立ちをして2年後に成鳥として吉備中央町で繁殖に参加している個体が多くいることが分かりました。
また、広島県や鳥取県でヒナに標識された個体が吉備中央町の巣箱で繁殖している例も見つかりました。

ブッポウソウの寿命は、約10年!?

同じ巣箱で８年連続子育てしたオスがいます。２歳から繁殖を開始するため、９歳以上になります。他にも2014年生まれの9歳の個体が高梁で子育てしていることがわかりました。何歳まで子育てをするのか、今後の標識調査での発見が楽しみです。

ブッポウソウがずっと子育てできるためには…

色鮮やかな青い羽で大空を舞う美しい姿から”森の宝石”と呼ばれているブッポウソウ。
人の手が入った里山の環境を好んで、子育てを行います。
巣箱かけと同時に、昆虫の生息場所である里山にも目を向ける必要があります。
私たちの町で、ブッポウソウがこれからもずっと子育てができるように、みんなで静かにそっと見守っていきましょう!

吉備中央町の保護活動

保護活動の歴史 ―日本野鳥の会や町などの取り組み―

1988年	●日本野鳥の会岡山県支部が岡山県下で生息分布調査を開始し96羽を確認 ●旧加茂川町で19羽を確認
1990年	●巣箱かけの実験開始（～1991年）
1992年	●町とともにNTTの電柱に巣箱かけを開始
1994年	●巣箱の清掃や補修を開始（以降毎年実施）
1995年	●旧加茂川町の鳥に指定（～2004年）
1997年	●町全域を繁殖地として町文化財（天然記念物）に指定
2004年	●旧加茂川町と旧賀陽町が合併し吉備中央町が誕生、保護活動の継続を決定 ●賀陽地域に巣箱かけを開始
2006年	●高円宮妃久子殿下をお迎えし、「ブッポウソウ保護フォーラムin吉備中央町」が開催される ●信州大学がヒナのエサの調査を開始（～2007年）
2009年	●岡山大学がビデオカメラを利用して繁殖生態の調査を開始
2011年	●賀陽地域に新たに20ヶ所設置し、町内の巣箱数は約200個になる
2012年	●町が「吉備中央町に生息する希少野生動植物を保護する条例」を制定（ブッポウソウ，ニホンメダカを指定）
2013年	●町が保護啓発用パンフ・ピンバッチを制作し、町内外へPRした。巣箱数約230個
2016年	●町民有志による保護団体「ブッポウソウ吉備中央町会」発足
2017年	●ブッポウソウ吉備中央町会により、観察所「横山様」が整備される
2019年	●ブッポウソウを吉備中央町の鳥に指定 ●「第2回ブッポウソウ保護フォーラムin吉備中央町」が開催される
2020年	●ブッポウソウ吉備中央町会により、観察所「道の駅かもがわ円城」「竹谷ダム」が整備される

ブッポウソウ観察所案内

ブッポウソウに最も出会えるチャンスは、7月の子育ての時期です。地図以外の地域にも巣箱は設置されていますが、観察は、①～⑥の観察所で行ってください。また、各道の駅に案内所を開設しており、ライブカメラで巣箱の中を観察することができます。

※⑥はライブカメラのみ

ブッポウソウを観察する上で、以下のことを守って下さい。

○観察するときの注意点

ブッポウソウが、一番恐れるのは繁殖場所である巣箱を長時間注目する人間です。
観察や写真撮影は、必ず①～⑥の観察所で行ってください。また、許可なしに水田のあぜ、畑や個人の敷地へ立ち入ることはお控えください。

○道路の通行について

狭い道路が多い(特に横山様付近)ので、小回りの利く車でのお越しをおすすめします。また、狭い農道に車を乗り入れないでください。

観察所は、町民の方がボランティアで設置しています。マナーを守り、安全にご利用いただきますようお願いいたします。

お問い合せ・連絡先

吉備中央町役場 協働推進課

〒716-1192 岡山県加賀郡吉備中央町豊野1-2
TEL.0866-54-1301
FAX.0866-54-1311

監修：高梁野鳥の会　黒田聖子
日本野鳥の会岡山県支部
表紙写真：生本覚

参考文献／倉敷市立自然史博物館, 2014, 幻の青い鳥ブッポウソウ